

埋文やまがた



2023年3月31日
web版第12号
(第68号)



鶴ヶ岡城跡第4次調査

酒井家庄内入部400年記念の今年、鶴ヶ岡城跡の発掘調査で、城の二の丸大手馬出に伴う堀と土橋が確認されました。

公益財団法人 山形県埋蔵文化財センター

YAMAGATA PREFECTURAL CENTER FOR ARCHAEOLOGICAL RESEARCH

〒999-3246 山形県上山市中山字壁屋敷5608番地 TEL 023-672-5301 FAX 023-672-5586

ホームページ：<https://www.yamagatamaibun.or.jp>

メールアドレス：yac@yamagatamaibun.or.jp

水林下遺跡は、秋田県境そばに所在し、ちょうかいざん鳥海山西麓とびしまにあって、日本海にも飛島にも近い場所に立地した遺跡です。今年度は第3次調査になり、昨年度に表土除去まで行ったC区北と、B区とC区東の間にある未調査区（旧石器調査区）の調査を行いました。

C区北では、覆土ふくどの上面に縄文時代中期初頭の北陸系土器くぼみいし すりいしや凹石、磨石をともなうフラスコ状土坑、9～10世紀頃と考えられるたてあなたてもあと竪穴建物跡の可能性がある遺構、時期不明の焼土遺構などが発見されました。遺物は、黒耀石製石鏃せきざくや縄文土器はじきや赤焼き土器、須恵器、製塩土器などが出土しました。

旧石器調査区では、昨年度C区東の東側で確認された石器分布の南側の続きが確認され、石器分布がさらに拡がることわかりました。とくに、その石器分布の中心付近では、打製石器を製作する際に生じる剥片はくへんとともに、1mm前後の微細な大量のチップ（石くず）が集中して発見されました。ほかに、珪質頁岩ぎよくずいや玉髓製の台形石器が8点出土しました。また、今年度の調査では、昨年度発見された北陸産透閃石岩製磨製石斧と同じ白色の石材で、メンテナンスなどで割り取られた研磨痕が残るものを含めた石斧の調整剥片ちようせいはいくへんが、4点出土しました。さらに、同じ北陸産

の透閃石岩ですが、緑色の研磨痕が残る石斧の調整剥片も発見されました。

第1～3次調査で発見された旧石器資料は、合わせて1000点を超えており、微細なチップを含めるとその数はさらに多くなります。本遺跡の石器群は、第1～2次調査で出土した炭化物の放射性炭素年代測定で、3.5～2.8万年前の後期旧石器時代前半期の初頭に位置づけられることがわかっています。太古のむかし、鳥海山の西の麓ふもとで、ヒトは石器を作り、使っていた、そして遠くから運ばれてきた石斧も使い暮らしていました。遺跡の中での具体的なヒトの活動内容については、今後の整理作業において追究することになります。



フラスコ状土坑内の覆土上面にまとまって出土した、縄文時代中期の北陸系土器や凹石・磨石



珪質頁岩製台形石器の出土状況



第3次調査出土台形石器（左）、石斧調整剥片（右）

はら うち 原の内 A 遺跡第 4 次

— 縄文時代の
「捨て場」を発見 — 尾花沢市

原の内 A 遺跡は、奥羽山地の麓である尾花沢市鶴子に位置し、丹生川左岸の河岸段丘上に立地します。遺跡は、縄文時代中頃（約 5,000 年前）の集落跡で、これまで 3 次に渡る調査が行われました。1～3 次の調査区は、集落跡の南側で、主に竪穴住居跡やフラスコ状の貯蔵穴が確認されました。今回は、水田の圃場整備の用排水路工事に伴い、集落跡の東端を南北に細長く縦断する調査区となりました。

調査では、標高の高い調査区南側で、当時の土器や石器を多量に廃棄した「捨て場」と考えられる谷跡や溝状遺構が発見されました。この谷跡（SG15）や溝状遺構（SD6）は、長さ 5 m 以上、幅 5 m 前後で、深さは約 1～1.5 m の規模で、多量の土器が土圧により潰された状態で、積み重なるように出土しました。

特に谷跡（SG15）では、多量の土器や石器などの他に、舟形町西ノ前遺跡の国宝土偶に類似した土偶や、三角濤形土製品など祭祀に関わる遺物も出土し注目されます。

一方、標高の低い調査区北側では、小規模なピットや土坑、風倒木痕が単発的に確認されました。また、調査区南側と北側の中間にあたる調査区中央部では、集落を南北に区切る幅約 20 m の SG15 と同時期の川跡（SG20）が発見されました。

今回の調査の成果としては、特に集落跡の東端に集中する「捨て場」から、縄文時代の「場」の利用方法や、地層のように重なり出土した土器から、細かい土器の形や文様の移り変わりを知ることができる資料が多く得られたことがあげられます。



検出状況の調査区近景(南より。奥に鳥海山を望む)



SD6 溝状遺構の上層遺物の出土状況（東より）



SG15 谷跡の遺物出土状況（北より）



1～5：土偶、6：耳飾り、7：三角濤土製品、8：線刻礫

北向遺跡は、JR仙山線楯山駅の西、楯山小学校の南に展開する古代の集落遺跡です。これまでに県道や市道の建設に伴い発掘調査が行われてきました。それらの調査では、古墳時代の終末から平安時代の前半まで、合計で70棟を越える竪穴建物が発見されています。立谷川などが作りだした扇状地の末端に位置する本遺跡は、水辺にも近く、暮らしやすい場所だったのかもしれませんが。

ところが今回の調査では、1棟の掘立柱建物跡といくつかの柱穴を検出しただけで、ほかに建物跡はありませんでした。というのも調査区の大部分は旧河川の中にあっただため、建物が建てられる状況ではなかった、あるいは建っていたけれども流されてしまったことが考えられるからです。現在は固定されている川幅も、当時は雨のたびに姿を変える不安定なものだったことでしょう。

建物跡はありませんが、河川跡からはたくさんの遺物が出土しました。それらは奈良時代の中頃から平安時代の前半までの時間幅をもっています。時間幅のある遺物が一か所で出土することから、一気に流されてきて埋まったというよりは、川の岸辺の淀みのような場所に流されてきたものが埋まりきらずにゆっくり堆積していったのではないかと考えています。

河川が蛇行し、氾濫時以外は陸地化していたと考えられる場所からは、先に述べた掘立柱建物のほか、鍛冶炉や、骨片を含む火を焚いた痕跡、大量に遺物が含まれる土坑などがみついています。掘立柱建物跡は、柱穴の大きなもので、大型の建物を予想させますが、調査区の端にあり、全容は次回の調査に持ち越されます。遺物を大量に含む土坑は、この掘立柱建物の近くにあるため、不用品を廃棄したゴミ穴だったのかもしれませんが。骨片を含む痕跡は、それが人なのか動物なのかはわかりませんが、なにかしらの遺体の処理を行っていたと思われます。鍛冶炉などとともに、集落の中心部から離れた、川のほとりでそのような行為を行っていた当時の景観を偲ぶことができます。



遺跡全景



河川跡の調査風景



鍛冶炉の調査風景

山形城三の丸跡は、最上義光が整備拡張した近世城郭山形城の一部にあたります。今回の調査は昨年が続いて都市計画道路事業3・2・5号旅籠町八日町線に伴う調査になり、埋蔵文化財センターで行う23回目の調査となります。調査の結果、江戸時代と奈良・平安時代の遺構・遺物が確認されました。

江戸時代の遺構では、石を組んだ遺構が4基ほど確認されています。井戸や水場遺構、または貯蔵用の地下施設と考えられます。その内、井戸跡は50cmから60cmの大きな石を積み上げ、井戸枠としており、深さは2m60cm程ありました。残念ながら構築された年代は分かりませんが、埋め戻された土の中に江戸時代後期ごろの陶磁器がありましたのでその頃に廃棄されたことが分かります。遺物では江戸時代後期の陶磁器類や瓦が多く見つっています。また、江戸時代初期に作陶された九州地方や愛知県の器が少数ながら見つかりました。三の丸は江戸時代後期になると石高の減少で屋敷地が維持出来なくなり、田畑になっていく部分が多くなるとされています。今回の調査区では江戸時代後期までその屋敷地が残っていたことが分かりました。江戸時代後期の絵図によれば三の丸の東側、大手門から七日町口や横町口、十日町口に至る道沿いに

屋敷地が存在していることが分かります。

古代では、一辺が4mほどの竪穴建物が2棟と、全体が分からない竪穴建物が2棟の計4棟が検出されています。いずれの建物からも奈良時代末から平安時代初期の遺物が出土しています。その中の一棟ではカマドの袖に芯材として大きな石を設置しているのがみられました。昨年度の調査でも3棟の竪穴建物が見つっています。いずれの建物も遺物から同時期に存在していたと考えられます。また、全体が分かっている建物はいずれも向きをそろえて建てられていますので計画的に配置されていたと考えられます。奈良・平安時代の段階で規格性をもった集落形成がこの地域で行われていたと考えられます。



江戸時代の瓦や陶器が出土した土坑



石を何段も積み重ねて構築された井戸跡



奈良・平安時代の竪穴建物のカマド跡

鶴ヶ岡城は中世には大宝寺城と呼ばれ、室町時代初期頃に武藤氏によって築かれたとされています。戦国時代に武藤氏が滅ぶと、庄内地方は上杉氏、その後は最上氏の支配下となり、慶長8年(1603)には鶴ヶ岡城と名を改められました。元和8年(1622)、最上氏の改易後に酒井氏が入部し、鶴ヶ岡城を居城としました。

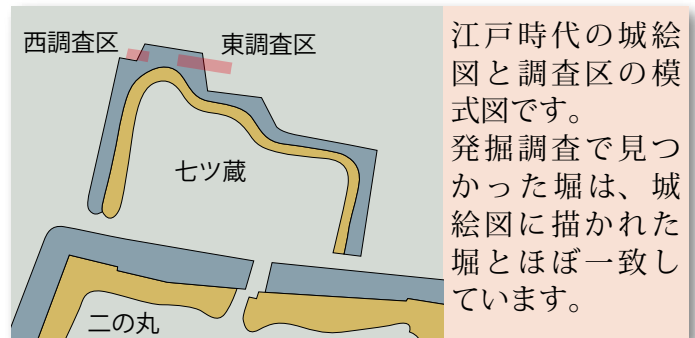
第3次の調査区は、鶴ヶ岡城二の丸の北に位置する「七ツ蔵」と呼ばれた庄内藩の米蔵があった地区にあたります。七ツ蔵は寛永元年(1624)にこの地に置かれ、明治6年(1873)に取り壊されました。その後は学校用地となり、明治33年(1900)には堀が埋め立てられました。現在は山形県立鶴岡南高等学校の敷地となっています。

調査区は学校の渡り廊下を挟んで東と西に分かれます。東西の調査区から七ツ蔵の堀が見つかりました。西調査区で堀の西岸、東調査区で東岸が確認されています。東岸から西岸までの長さは約47m、現地表からの深さ約3.5mです。七ツ蔵を囲む堀の北端部にあたと考えられます。堀岸に杭や石垣等の護岸施設は見つかりませんでした。

堀の西側では井戸や溝が見つかりました。溝の底面からは江戸時代以前の中世の遺物が

出土しています。

120年以上前に埋め立てられ、正確な位置や規模が不明となっていた七ツ蔵の堀の一部を発掘調査で初めて確認することができました。また、酒井氏や最上氏以前の大宝寺城に関連する中世の遺跡の広がりが明らかになってきました。



西調査区で見つかった堀です。堀の西側(写真左端)で南北に走る中世の溝が見つかりました。



東調査区で見つかった堀の断面です。東西堀の下層からは江戸時代初め頃の陶磁器が出土しています。



中世の溝の底面から15世紀頃の古瀬戸瓶子(上)と青磁碗(下)が出土しました。

調査範囲は、山形地方裁判所鶴岡支部西側の県道部分 153㎡（南北約 33m）で、鶴ヶ岡城の二の丸大手（正面口）にあたる荘内神社参道入口近くです。城門前を堀と土塁で囲んだ「馬出」と呼ばれる防御施設があった場所で、堀底は地表下 3m 近く下がる可能性が高く、狭い調査区で安全に掘り下げが進められるように、長さ 9m 以上の鋼矢板を埋め込む土留め工事を行なったうえで発掘にのぞみました。

厚さ 50cm 前後の表土を重機で除去すると、明治時代の整地層が全面に広がり、調査区西辺には当時の土地区画に関連すると思われる石列が南北方向にまっすぐ並んでいました。

この石列と近代整地層を掘り下げたところ、地表下 1m の深さで二の丸大手馬出に伴う堀の上面が確認され、その西側で二の丸堀との間に造られた土橋の東縁が発見されました。参勤交代などの際には藩主もここを渡って出入りします。馬出の堀は南北幅 12.5m 前後で、土橋上面から堀底最深部までの深さは約 2.5m です。堀の南側上層では、馬出の石垣に利用されたと見られる大きな金峯石（地元産の花崗岩）が 6 個並んで出土し、廃城に伴う明治 9 年（1876）の埋め戻し時に置かれたと考えられます。急傾斜の南岸には乱杭が打ち込まれ、南端に胴木（石垣の基礎材）と思われる

太い横木が据えられていました。土橋の堀側にも 2～3 列の角杭・丸太杭を打って護岸とし、裏側に横長の板材を複数段立て重ねて玉石を積み上げる構築方法がとられていました。杭の長さは 30cm 程度から 3m 近くまであり、土橋だけで大小 200 本以上を数えます。これらの杭は一度に打たれたものではなく、崩れた箇所の改修など時期差があるようです。また玉石積みの下に玉石を含まない盛土の高まりと堀の堆積が確認され、土橋本体の構築も大きく 2 時期に分かれることが判明しました。

馬出範囲と調査区北側の下層では、鶴ヶ岡城以前の溝・土坑・柱穴なども見つかり、中世から近代に至る二の丸大手門前周辺の移り変わりを詳しくたどることができそうです。



二の丸大手馬出に伴う堀（右：上層掘り下げ状況）と土橋（左：検出状況）。写真手前が馬出側（南側）。



土橋の杭列・板材（北から：右側の玉石・盛土は除去）



堀・土橋中央部の東西方向断ち割り断面（北から）

考古学お仕事体験 11月20日(日)

発掘後、センターで行う整理作業を体験するイベントを開催しました。一日考古学者になって様々な作業に挑戦です！一步踏み入れた考古学の世界、興味をもっていただけませんか？



縄文土器、どことどこがくつつくのかな？



トレース体験では、線がずれないように慎重に丁寧になぞります。



令和4年度市町村巡回展 3市町村で、地域の遺跡を中心に展示を行いました



長井市

縄文時代から近世まで幅広い時代の遺跡の発掘調査が行われた長井市、赤く塗られた注口土器は必見です。

7月27日(水)～
8月21日(日)
長井市古代の丘資料館



山辺町

3遺跡の発掘調査が行われている山辺町。縄文時代の根拠的場遺跡は、初公開になります。

10月13日(木)～
11月9日(水)
山辺町ふるさと資料館



遊佐町

古代の遺跡を中心に発掘調査遺跡が多い遊佐町。普通の集落からは出土しない遺物がたくさんあります。

1月11日(水)～
2月7日(火)
遊佐町生涯学習センター



編集後記

西ノ前遺跡(舟形町)出土『縄文の女神』の国宝指定10周年の2022年、各所で土偶関連の展示やイベントが行われました。まっすぐ直立していると思っていた

女神様ですが、右足に重心をおいて歩きだそうとしているとのこと。後ろから見るとよくわかります、ぜひ機会があれば確認してみてください！